

2019年
1月号
NO. 0077

カトリック笹丘教会
教会ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
TEL761-4504 fax761-4524
広報委員会

新しい心の地図を携えて



主任司祭 遠山満

皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年中は、色々とお世話になりました。本年も、どうぞ宜しくお願い致します。

ところで、皆様、新年をどのように過ごされたでしょうか。私は、昨年暮れ一人の信者さんが亡くなられた後、正月の二日と三日に、通夜と葬儀ミサを済ませ、三日の午後、故郷の八代へ向けて出発しました。ところが、高速道路のみやま柳川というインターで、突然、訳も分からないまま高速道路から降りる羽目になりました。何が起こったのか、初め分からなかったのですが、信者さんたちから、「熊本で地震が起こったようですが、大丈夫ですか」などのメールを頂き、「熊本で地震が起こった為、このような状況になっているのか」と少しずつ理解できるようになりました。その後降りて、一般道路で行くことができるか、考えてはみたのですが、不可能な気がしてきました。何故なら、私の地図帳の中に、みやま柳川が書かれていなかったからです。みやま柳川は、比較的新しいインターで、私の古い地図には、掲載されていないインターでした。夜間でもありましたので、一般道路で帰るのを諦め、福岡に引き返し、次の日に八代へ立った次第です。旅をするなら、出来るだけ新しい地図が必要であることを痛感しました。

人生という旅をしている私たちが、心の中に携えている地図、それが心の地図です。幼い頃、心に強い印象を与えた出来事を初め、様々なことが、私たちの心の地図に刻まれています。ただ、この地図も、更新していかなければ、私たちは途端に迷子になってしまいます。例えば、「私の隣人はこのような人」と考えていたとしても、その隣人の現実、今日もそうなのか、私たちは検証する必要があります。数か月前に会った、その隣人が、今、以前と異なった印象の人に変わっているかもしれません。私たち自身もそうです。一年前の私と今の私は異なるはず。また神様に対する思いも、異なるはず。私たちは、一年前の心の地図を現実に合わせて更新して、また旅を続けましょう。新たな眼差しで、自分自身を、また隣人を眺めることができるように、必要な恵みを願いましょう。



~~~~~ 新しい年を迎えて ~~~~~



マイケル・ヒルデン神父

Happy New Year to all our brothers and sisters of our Sasaoka Church Faith Community. May our loving God and Father bestow an abundance of grace and guidance upon you to help you continue to grow and fulfill your mission to be builders of God's Kingdom of peace and love in the year 2019.

In Japan, the celebration of a New Year is a very traditional event. "osetchi ryouri" and "ozouni" are two special traditions of the Japanese New Year that can't be translated into English because there is no equivalent counterpart in non-Japanese Culture. While "ozouni" is a National Japanese New Year Tradition, each and every area of Japan has its own distinctive way of making it. The people of Hiroshima put oysters in their "ozouni", while the people of Fukuoka prefer to use yellowtail fish. Though the ingredients may vary from place to place, the reason for enjoying this soup at New Years' time is everywhere the same. Hot, healthy soup warms and nourishes our vital internal organs (内臓) and helps to sustain the health of our body as we receive the wonderful gift of a new year of life.

As Christians, each and every Sunday we experience a joy even more profound than New Year happiness. Gathered around the altar of Christ, we celebrate His gift of eternal life by receiving His holy body and blood in the Eucharist which is God's way of warming our hearts and His way of nourishing us. Whatever our nationality may be, we become one as we share the one bread at the altar of the Banquet of Eternal Life. May God's festive food fill our hearts with eternal joy each and every Sunday of 2019!

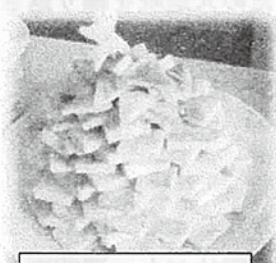
笹丘教会信仰共同体の兄弟姉妹の皆さん、あけましておめでとうございます。この2019年も、私たちの愛する父なる神が、皆さんに溢れる程の恵みと導きを下さいますように。そして皆さんが成長し続け、愛と平和の神の国を築く者となるべき使命を果たすことを助けてくださいますように。

日本では、お正月を祝うことはたいへん伝統的な行事です。その中でも「おせち料理」と「お雑煮」、この二つは英語に訳することが出来ない特殊な言葉です。日本以外の文化圏では相当する訳語がないからです。「お雑煮」は全国的なお正月の伝統で、日本のありとあらゆる地域でその土地特有の作り方がありますね。広島ではお雑煮の中に牡蠣を入れ、一方、福岡では鰯を好む、といった具合に。しかし、その材料は場所によって違えども、お正月にお雑煮を味わい楽しむという理由はどこでも同じです。熱くて体に良いスープ（お雑煮）は、私たちがそれを新年の命の糧として受け取り飲むときに、体を温め、大事な内臓に栄養を与え、健康を支え維持する手助けとなるのです。

クリスチャンとして、私たちは毎日曜日に、お正月のお雑煮をいただく嬉しさよりもさらにもっと深遠な喜びを経験します。私たちは、キリストの祭壇のまわりに集い、聖体拝領でキリストの血と肉をいただくことによって永遠の命という賜物をお祝いしますが、このことこそが神様が私たちの心を温め、私たちを養い育てくださるなさり方なのです。国籍が何であろうとも、永遠の命の宴の祭壇で一つのパンを分かち合うとき、私たちは一つになれるのです。

2019年のすべての日曜日ごとに、永遠の喜びをもって神の宴の糧が私たちの心を満たしてくださいますように！【和訳 広報委員会】

2018. 12. 9 教会学校クリスマス会



工夫を凝らした  
お菓子のツリー



集中力がすごい!



お楽しみのプレゼント交換



2018.12. 24 初聖体  
おめでとうございます



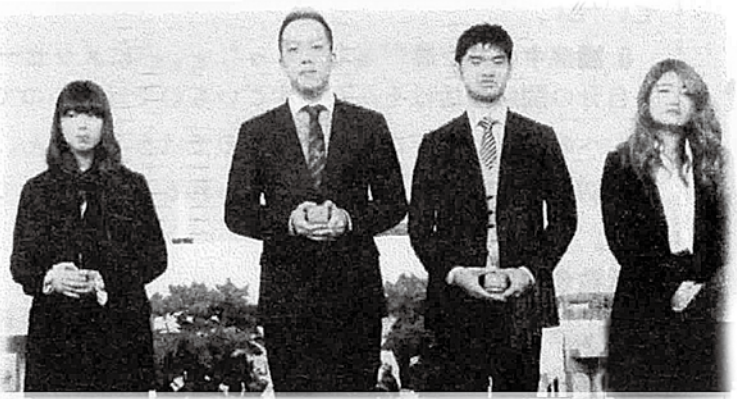
マキシミリアノ  
マリア・コルベ  
栗原聡史(さとし)



2019. 1. 13.

新成人祝福式 新成人おめでとうございます!!

9名の新成人のうち4名の新成人が教会で祝福を受けました



ミサ後のコーヒーコーナーでは思い出話をそれぞれ披露して盛り上がりました。落ち着いた堂々たる姿に、皆ただただ関心するばかりでした。



## †今田昌樹神父 ご退院



昨年7月の半ばから、抗がん剤治療（悪性リンパ腫というガン）治療のため入退院を繰り返されました今田神父様。2019年1月5日に退院されました。

### Q.闘病中は副作用などで苦しまれたと思いますがどのようなことが起こりましたか？

・湿疹が出たり、指先やつま先のしびれ、それに髪が抜けるなどありますが、吐き気などのつらい症状はなく、軽く済んだのは幸いだったと思います。  
・治療により抵抗力が極めて低くなっているのに、風邪を引いて熱を出したことが二回ありました。最後の入院では、それを引きずって入院した日に高熱を出し、治療開始が丸一週間遅れて、その退院が1月5日になってしまいました。クリスマスもお正月も病院で迎えるという生まれて初めての体験をしました。

### Q.今後はどのような生活になるのですか？

もちろん、これで完治ということではないでしょうから、これからは初めは月一回ほどの検査と診察を受ける経過観察が予定されています。

・仕事の方は治療が続いていた時も、退院中、また病院でも記事を書いたり、できることをやっていました。ただ、まだまだ無理はできないのでできる範囲です。6か月治療を受けたら、体力の回復に6か月かかると先生から言われています。

### Q.病気を知って不安が襲ったと思いますが、どのようなお気持ちで過ごされたのですか？

・自覚症状がほとんどなかったため、当初はピンと来ず、不安もありましたが、訳が分からなかったというのが正直なところです。また、主治医の先生の最初の説明でかなり厳しい状況を説明され、確かに自分はどうなるのだろうかという不安がなかったわけではありません。でも、笹丘の皆さんはもちろん、たくさんの方がお祈りしてくださっていることが分かっていたので、自分の信仰とかいうよりも、お祈りに支えられていたのは確かです。それは今でも続いています。

### Q.闘病中の方や思い悩んでらっしゃる方にメッセージがあれば

・自分の闘病生活はそんなにすごいものではないので、私から厳しい闘病生活を送っている皆さんへのメッセージなど出せるものではありません。ただ、神さまは私たち一人ひとりを本当に大切にしておられる、愛しておられることを決して忘れてはいけない、それだけは強く思います。

### 笹丘教会の皆さんへ

千羽鶴ならぬ二千羽鶴をお贈りいただき、数えきれないほどのお祈りのプレゼントをいただきながら、年賀の便りも差し上げず申し訳なく思っています。どうか、笹丘の皆さんにお祈りに心から感謝していること、また、これからもお祈りいただければ幸いですということをお伝えいただければありがたいです。よろしく願いいたします。

(編集 西山)

編集後記 広報委員会もビッグニュースがありました。新メンバーを迎えることができました！ 斉葵さんです。年末大掃除の時、声をかけさせていただきました。前向きなお返事をいただいて、大喜び！初回の会議も楽しい空気に包まれました。感謝。

・何ができるかわかりませんが、勉強させていただきます（斉）